

研修報告書 No.19

研修先： 大井田病院

この度、私は令和4年1月4日から1月31日まで特定医療法人 長生会 大井田病院にて地域医療研修をさせていただきました。

研修開始前に大井田病院について、人口2万人が住む高知県宿毛市にある地域医療を担う慢性期病院としてうかがっていました。地域医療研修をさせていただくにあたり、慢性期病院の患者さんの管理や外来業務について学びたいという目的で研修を開始いたしました。

実際の研修内容としては、午前中が外来での診察や処置、病棟での検査などを行い、午後にはほぼ全日訪問診療・往診をさせていただくというものでした。自分が所属する昭和大学横浜市北部病院は、神奈川県横浜市の北部地域の中核病院でありながら大学の附属病院という性質もあり、急性期の患者さんの管理をすることが多く、また外来についても専門外来も多いという特徴があるため、大井田病院での外来の診療業務や処置、慢性期の患者さんのリハビリ入院の管理など、多くが初めての体験となりました。

特に、今回の研修で最も学ぶことができた在宅医療の意義や難しさ、やりがいについて報告させていただければと思います。

地域医療研修以前は在宅医療に対して、地域で行われている限定的なものという漠然としたイメージしかありませんでした。ですが、実際現場に出させていだいてからは衝撃の連続でした。まず、患者さんのご自宅で診察をするという難しさです。持参できる医療機器は限られており、診察するためのスペースもベッドや椅子の上のみ、人員も基本的に医師・看護師の2人だけ、ご自宅で寝たきりの方や独居の方も多などという環境で素早く正確に診察を行うことがいかに難しいかということを感じ知らされました。特に往診では新規の主訴がある方を診療することがほとんどのため、いかに素早く鑑別疾患を想定し必要な診察・検査をおこない、入院の必要があるか判断する難しさを経験することができました。一方で難しさだけでなく、患者さんのご自宅に伺って実際どのように生活されて、どのように在宅医療を利用されているのかを把握し、医学的なアプローチのみならず地域生活にかなげるためのトータルコーディネートを考えることができるというやりがいも感じることができました。

次に、在宅医療を求めている患者さんの多さです。午後の3-4時間程度の訪問診療の業務時間で平均3~5人程度、月100人ほど診察を行います。入院後の経過観察のための方や定期診察の方など診療理由は様々ですが、多くの方が在宅医療を求めており、需要は増すばかりです。

医師としての立場から在宅医療の難しさ・やりがいを感じつつ、地域の医療リソースの限界や介護施設のひっ迫、なにより住み慣れた家で過ごしたいという患者さんの希望など、在

在宅医療の需要が増している状況を踏まえ、「患者さんにとっての幸せはなにか」に寄り添って考える地域医療の意義を考える大変得難い機会となりました。

他にも、午前の外来での業務で特に印象に残ったものとして、慢性疼痛の管理や介護保険申請のための主治医意見書を求めてくる患者さんへの対応があります。トリガーポイント注射などは初めての経験で、実際の手技として経験することができました。また、主治医意見書も初めて作成させていただきました。そもそも主治医意見書を地域医療研修以前に見たことがなく、またそれに必要な診察や地域包括支援センターの方との連携など、介護保険の重要性を感じる様々な経験ができました。病棟では、リハビリの患者さんが多く入院されている一方で、低Na血症などの内科的疾患や、挿管管理を要する急性期疾患など多岐にわたる患者さんの診療に当たらせていただきました。その他にも、定期的にしていただいたレクチャーや GENEPRO の先生方の取り組み、看護師への講習など大井田病院でのそれぞれの取り組みは大変刺激になるものでした。

今回の地域医療研修において、特に地域医療における在宅医療の重要性やその難しさ、やりがいを学ぶことができた一か月となりました。今後も、地域医療の現状に目を向け、貢献する方法を考えていきます。

COVID-19 オミクロン株が猛威を振るい始めた難しい時期でしたが、充実した研修を組んでくださり受け入れてくださった大井田病院、高知医療再生機構の皆様にご心より感謝申し上げます。4週間と短い期間でしたが大変お世話になりました。本当にありがとうございました。